

## ■製鉄所の公園化 ～インダストリアルネイチャー（産業的自然）の展開～

○インダストリアルネイチャー（産業的自然：人工の産業構造物と自然回復状況をありのままに見せる取組）により、炭鉱遺産の新しい価値を創造しようとしてい<sup>↑</sup>**製鉄所の設備と緑により独特の景観を創出**

○デューイスブルクでは、製鉄所を核に公園化し、老若男女が訪れる場所に改変。カフェも併設したり、音楽等のコンサート会場として利用されたり、ガスタンク内でスキューバーダイビング、石炭ホッパーでロッククライミングが行われている。

○ハッチングンの製鉄所では、産業的自然のフィールドの中で、看板や模型の展示を工夫して、製鉄所の作業を疑似体験できるようになっている。製鉄のプロセスを楽しみながら学べるようにしている。

<デューイスブルク>



産業的自然の発見



<ハッチングン>



列車の連結作業／原料ホッパーの投入／銑鉄作業 等を理解しやすい工夫

## ■炭鉱・製鉄関連施設の活用

- ガソメーター（ウーバーハウゼン）では、何も無い高さ112mのタンク内の空間を利用してアートを表現。
- 炭鉱住宅（ゲルゼンキュルヘンほか）も、土木と建築の共同プロジェクトにより、環境に配慮したデザイン性と機能性のある、住み良い公営住宅に改築。
- ボイラー施設（エッセン）のスペースに工業デザインのコンペ作品を展示。

<ウーバーハウゼン>



<ゲルゼンキュルヘン>



庭には炭鉱で使われていた  
炭車や道具に花を添えて装飾

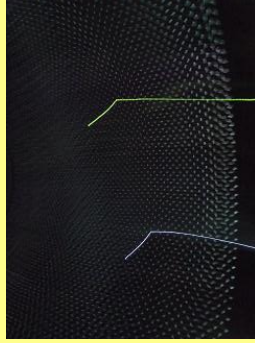


<エッセン>

工業デザインコンペを実施  
（車やハリコブターを使った展示）



ガソメーター内での架設展示



## ■博物館の魅力的な展示

- 製鉄や炭鉱、産業、鉄道、仕事に関する博物館が国立・州立により整備され、歴史から仕事までを理解できるようになっている。
- 石炭を採掘する機械、採掘に必要な用具やアンモナイトなど様々なものを展示している。
- 鉄を切削したり、プレス加工したりする仕事も実演して、仕事の説明。

＜ボツム＞  
国立鉱業博物館



模擬坑道



炭鉱の縁込所の雰囲気を再現した博物館入り口の展示



＜ウーバーハウゼン＞  
産業博物館



切削やプレス加工を実演



## ■地域の統一イメージの形成・ネットワークの充実

統一的设计により、産業遺産の入口付近にサインポールや案内標識が設置されており、産業遺産の統一的なイメージを創出するとともに、訪れる人への利便性を図っている。

河川敷地や線路跡地をサイクリングロードとしての活用、各所にレンタサイクルの拠点が整備され、地域内を縦横無尽に走行できるサイクリングネットワークが充実。自転車も折りたたみ車に持ち込むことができます。

＜統一设计のサインポールの案内標識＞



＜堀やお土産品のTシャツ等と同じマーク＞



＜サイクリングが人気＞



- (1) 地域づくりは地元の誇り・アイデンティティなくして、地域の再生なし。  
(元独立協会会長の片岡さんより聴取)
- (2) 古くて危険な立坑等の炭鉱遺産は解体するが、そうでない場合はできる限り保存や新たな価値を加えて活用するという考え。

- (3) ドイツとの技術・人的交流が行われている。

- ・ドイツの製鉄・鉱山会社(GHH社)の技術が空知・九州に導入

- ・1950年代後半に炭鉱技術研修のため、空知をはじめ日本から約400名の炭鉱マンがドイツに渡る

↑ 結びつけることにより、ストーリー性構築の可能性

- (4) 空知の産業遺産を活用できる可能性は十分にある。

↑ 例えば、

- ① 地域や産業の歴史、仕事を学ぶ場としての活用
- ② ズリ山や立坑等の景観公園化、ランドマーク化、アートの活用
- ③ 石炭博物館、郷土史料館、炭鉱館等の再生(展示方法の工夫等)
- ④ 統一的なサインや案内標識の整備
- ⑤ 地域間連携・ネットワークによる統一的なイメージ・ストーリーの形成
- ⑥ インダストリアルネチャー(産業的自然)の理念・手法の研究・導入

※そのためには、地域の人々が産業遺産に誇り・アイデンティティを持つことが重要。

今後、振興局長から知事への政策提案や振興局の独自事業、プロポーザル型形成事業(全庁横断的な施策の検討)等を通じて、産業遺産の保全と活用に関する施策の立案化を図って参りたい。

c 政策形成チームメンバー及び取組の経過

平成27年度プロポーザル型政策形成事業 政策形成チームメンバー

明治北海道の産業革命遺産等の保全・活用に関するグランドデザインの作成

～「北海道ミュージアム構想」との連動に向けて～

	所 属	職 名	氏 名
リーダー	総合政策部政策局参事	主幹	青山 大介
サブリーダー	空知総合振興局地域政策部地域政策課	課長	東 貴弘
	空知総合振興局地域政策部地域政策課	主査	森本 亜紀
	空知総合振興局地域政策部地域政策課 地域政策係	主任	柏 浩行
メンバー	総合政策部人口減少問題対策局地域政策課地域政策G	主事	山根 慶子
	環境生活部くらし安全局文化・スポーツ課文化G	主査	遠藤 健司
	北海道博物館学芸部社会貢献G	学芸員	栗原 憲一
	経済部観光局観光地づくりG	主任	木之内 将一
	経済部産業振興局環境・エネルギー産炭地・保安G	主査	曾我 晃
	建設部まちづくり局都市計画課基本計画・景観G	主査	池田 美穂
	後志総合振興局地域政策部地域政策課	地域政策 係長	早坂 優
	胆振総合振興局地域政策部地域政策課	主査	錦野 昌浩
	教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課文化財調査G	主査	藤原 秀樹
事務局	総合政策部政策局参事	主幹	小野 淳也
	総合政策部政策局参事	主査	山本 雄児

## 政策形成チームの取組の経過

5/25 (月)	「平成27年度プロポーザル型政策形成事業」の政策形成対象事業に選定	
6/9 (火)	9:30~11:00 別館西棟3F1号会議室	事前打合せ ・提案内容の説明、今後の進め方
7/16 (木)	13:00~15:00 本庁舎9F職員監会議室	第1回会議 ・札幌国際大学吉岡教授による講義 ・事業概要、スケジュールの確認 ・提案内容の共有
8/11(火) ～ 8/14(金)	【別事業】ドイツ・ルール鉱工業地域調査 (IBAエムシャーパーク視察)	
8/11(火) ～ 8/31(月)	産業遺産の保全と活用に関する調査 (市町村アンケートの実施)	
9/14 (月)	13:30~15:30 赤レンガ庁舎2F1号会議室	第2回会議 ・(株)JTB北海道萩原部長による講義 ・ランドデザインの検討状況 ・市町村アンケート調査結果 ・先進地事例調査の実施
10/4(日) ～ 10/8(木)	先進地事例調査 (九州視察)	
10/15 (木)	13:00~15:00 本庁舎10F都市計画課会議室	関係者打合せ ・先進地事例調査の結果 ・近代遺跡調査、保全に係る補助制度 ・中間報告会(知事プレ)の内容確認
10/27 (火)	16:30~17:30 本庁舎2F総合政策部会議室	第3回会議 ・中間報告会(知事プレ)の内容確認 ・中間報告書の内容確認 ・先進地事例調査の結果
11/13 (金)	17:00~18:00 本庁舎2F総合政策部会議室	関係者打合せ ・中間報告書の内容確認
11/19 (木)	14:45~15:50 本庁舎3F知事会議室	中間報告会(知事プレ)
12/11 (金)	13:30~16:30 北海道博物館会議室	第4回会議(及び北海道博物館視察) ・北海道博物館石森館長との意見交換 ・今後の進め方(最終報告書、役割分担)
1/29 (金)	15:00~17:00 別館西棟4F経済部2号会議室	第5回会議 ・最終報告に向けた検討内容に関する意見交換 アドバイザー(札幌国際大学吉岡教授) ・今後のスケジュール
2/18 (木)	15:00~17:00 本庁舎9F職員監会議室	第6回会議 ・東京大学先端科学技術センター西村所長による講演 ・最終報告に向けた検討内容に関する意見交換
3/14 (月)	13:30~16:30 本庁舎2F総合政策部会議室	第7回会議 ・最終報告書の内容確認
3/28 (月)	14:00~15:30 本庁舎3Fテレビ会議室	最終報告会

#### d 検討会の開催状況

## 第1回 政策形成チーム会議 議事概要（要点）

- 日時 平成27年7月16日（木）13:00～15:00
- 場所 本庁舎9F職員監会議室
- 出席者 メンバー11名、事務局2名、外部有識者1名 計14名

政策局参事・青山主幹（リガー）、小野主幹（事務局）、山本主査（事務局）、空知総合振興局地域政策課・東課長（リガー）、森本主査（リガー）、柏主任（リガー）、総合政策部地域政策課・山根主事、文化・スポーツ課・遠藤主査、北海道博物館学芸部・栗原学芸員、観光局・木之内主任、環境・エネルギー室産・曾我主査、都市計画課・池田主査、胆振総合振興局地域政策課・錦野主査、札幌国際大学観光学部・吉岡教授

※（欠席）後志総合振興局地域政策課 早坂地域政策係長

### 吉岡教授の講義のポイント

- ・既に存在する地域資源（潜在的満足）を顕在化の方が手っ取り早い。既にあるものを活かす。
- ・見方によって意見は変わり、意見が違くと作戦も変わる。捨てればゴミ、分ければ資源。
- ・道内179市町村のうち観光業で食べていける水準を超えているのは40程度。残りは厳しい状況であるが、見方によっては宝の山。
- ・観光（交流人口の拡大）はあくまで手段であり、最終的な目的は“よいまちをつくる”こと。
- ・この取組は、札幌近郊だが厳しい状況にある空知・室蘭・小樽から、魅力あるまちづくりを始めていこうとするものであると認識。

### 意見交換のポイント

#### <検討の方向性>

- ・最終的な目標である交流人口の拡大に関しては、ボリューム（単なる入込数）とクオリティ（1人当たりの訪問回数等内容や質）のバランスが大事。【吉岡教授】
- ・産業革命遺産は、ある程度の知識が無いと好奇心が沸かないテーマ。知識を提供する仕組みづくりが必要。【吉岡教授】
- ・ヘリテージツーリズム（産業遺産関連の施設・地域などを訪れて学ぶ新たな観光行動）は従来型のマストツーリズム（名勝+温泉+宴会といったスタンダードな観光行動）とは異なり、知識を授けるガイドが必要。【北海道博物館】
- ・（ただ単に知識を提供する従来型の）ガイドからインタープリター（観光客と地域資源を取り持つ役割）が重要。【吉岡教授】
- ・最初からAR技術のような飛び道具に頼る必要はないと思う。【吉岡教授】
- ・産業革命遺産はコアなファンを呼び込む仕掛けが必要であり、ストーリー性が非常に重要。そのような取組の先進地として鹿児島等の視察を想定。【空知総合振興局】
- ・鹿児島県については、今回の世界遺産の中核的な存在であり、ユニークな取組も行っている。こうした取組などを参考にして、北海道らしさを探求してほしい。【吉岡教授】

#### <北海道ミュージアム構想との関係>

- ・北海道博物館を中核とする道内の博物館とのネットワークを構築・活用して情報を発信していく方向で検討中。今年度は考え方や課題の整理、来年度に基本方針の原案、再来年度に基本方針を策定し、4年目に取組を開始するスケジュール感。【文・スポ】
- ・コンテンツが先行するかもしれないが、この取組の成果をうまくミュージアム構想に組み入れてほしい。【政策局】→ 今後の参考にする。【文・スポ】
- ・今回の産業革命遺産に関する取組はテストプラントのようなもの。ミュージアム構想で活用していただけるとありがたい。→ 今後の参考にする。【文・スポ】



- ・まずミュージアム構想のタマゴを作って、応援団を増やしていったらいい。【吉岡教授】
- ・この取組（産業革命遺産）の中で何か動き出したら、道内の他の地域資源にも動きが出てくると思うので、それを系統的に表現する仕掛けとして、北海道ミュージアム構想があるのだと思う。【吉岡教授】

#### <グランドデザイン>

- ・単に北海道ミュージアム構想に活用するだけで目的が終わってしまうことを懸念。外部にも見せることができるようなグランドデザインにしていく必要がある。【都市計画課】
- ・グランドデザインのイメージについては提案者と事務局も完全には共有できていない。政策形成チームで議論しながら、来年度以降も継続して活用できるものにしていきたい。【政策局】

#### <その他>

- ・空知・室蘭・小樽の「北の近代三都物語」のように、飛び地でストーリー性がある取組を支援するメニューを検討中。【観光局】
- ・江別市のレンガの歴史については、空知出身の人も多く、炭・鉄・港の中心に位置するという意味で関連性はある。【吉岡教授】
- ・江別のレンガの例のように、地域資源の価値は外から気づかされるもの。【吉岡教授】
- ・振興局と博物館が連携した取組を積み上げていくのもひとつの案。胆振では縄文文化、アイヌ文化、ジオパークなど様々なキーワードでのストーリー作りに難儀しているので、北海道博物館に助けてほしい。【胆振総合振興局】
- ・赤れんがインターネット会議室を活用していただきたい。【政策局】

以上

## 第2回 政策形成チーム会議 議事概要（要点）

●日 時 平成27年9月14日（月）13:30～15:30

●場 所 赤レンガ庁舎2階1号会議室

●出席者 メンバー10名、事務局2名、オブザーバー1名、外部有識者1（+随員1名）名 計15名

政策局参事・青山主幹（リガー）、小野主幹（事務局）、山本主査（事務局）、空知総合振興局地域政策課・東課長（リガー）、森本主査（リガー）、総合政策部地域政策課・山根主事、文化・スポーツ課・遠藤主査、北海道博物館学芸部・栗原学芸員、観光局・木之内主任、環境・エネルギー室産・曾我主査、後志総合振興局地域政策課・早坂地域政策係長、胆振総合振興局地域政策課・錦野主査、（株）JTB北海道・萩野室長、池本氏

※（欠席）空知総合振興局地域政策課・柏主任、都市計画課・池田主査、教育庁文化財・博物館課・藤原主査

### JTB北海道・萩野室長の講義のポイント

#### <観光を巡る動向>

- ・欧米では歴史ある建物等の観光転用が当たり前の考え方だが、日本では先ず保存という考え方が支配的だった。一昨年に観光庁と文化庁が連携協定を締結し、ようやく文化財の観光転用に向けた動きが出てきたところ。
- ・一般的な観光はマーケティングや付加価値の向上が困難で、交流人口の増加にもつながりにくい。スポーツ観光、産業観光、グリーンツーリズムなど、観光テーマをセグメント化して推進していくことが非常に重要。
- ・日本の観光競争力は世界ランキング9位と上昇傾向にあるが、地方都市（ゴールデンルート以外）は、情報発信、受け入れ体制の整備について改善余地がある。

#### <北海道観光の動向>

- ・インバウンドの国別状況を見ると、全国と比較して、アジアのシェアが高い傾向にある。
- ・オリ・パラに向けて、滞在が長く消費額も大きいヨーロッパや北米からの誘客が重要。
- ・北海道の強みは都市機能と地域を併せ持っている点であり、国内でこのような地域は少ない。
- ・今後、入込客数を増やすためには、旅行者のニーズをきちんと汲み取り、自然・食・温泉以外の新たな仕掛け、前例にとられないマーケティング等が必要。

#### <北海道ミュージアム構想に関して>

- ・従来の「自然」と「食」だけでは質の向上やマーケットの広がりが期待できない。歴史・文化の観光資源を掘り起こして世界に発信することが非常に重要。
- ・外部・専門家の目利きが重要。マーケットに近い人たちに来てもらい、ブラッシュアップすることが重要。
- ・持続的な観光地経営においては、経済価値、希少性、模範困難性のほか、マネジメント組織の存在が重要。

#### <その他（質疑への回答）>

- ・台湾などからの観光客については、（歴史・文化などを活用して）リピーターに訴求していく戦略も必要。
- ・専門知識（地元だけの特別な情報等）を持ったガイドの養成を、いかに短時間で行うかが課題。
- ・従来型のパンフレットは、Web等の情報と整合性がとれていないので、プロモーション全体をマネジメントする必要がある。

### 意見交換のポイント

#### <検討の方向性>

- ・検討内容のタイトルを「明治北海道の産業革命遺産等の保全・活用に関するランドデザイン

の作成～『北海道ミュージアム構想』との連動に向けて～」に変更したい。【政策局】

→ 異論なし【全メンバー】

#### <グランドデザインについて>

- ・外国人もターゲットに含まれると考える。【北海道博物館】
  - ・持続可能な地域づくりを考えた場合、ガイドを食べていける仕事としていく必要があるので、プロのガイドをどうやって育てるのか、その観点からも検討していただきたい。【北海道博物館】
- 反映させたい。【政策局】

#### <先進地事例調査（九州地域）について>

- ・3名程度で3泊4日の行程を想定している。メンバー、日程・行程、役割分担等について、急に検討を進めたい。【政策局】
- ・世界遺産の福岡県大牟田市の炭鉱遺産は朝鮮人等の徴用があり、いわゆる負の遺産として考えられている。世界遺産登録に向けて、どのように克服し、現在どのような状況なのか、話を聞きたいと考えている。【空知総合振興局】

#### <市町村アンケート調査等について>

- ・小樽市から、産業遺産に関係する奥沢水源地などについては回答しなくていいのかと逆に聞かれた。地元としては、活用できるものは活用したいという意向があるようだ。【後志総合振興局】
- ・（対象とする遺産を現在のリストだけでよいのかという議論はあるが、）今回のプロジェクトではここで留めておいて、これ以外にストーリー構築に組み込めるものがあるのか、振興局でも可能な範囲で学芸員などに確認したい。【胆振総合振興局】
- ・（各市に対する現地調査では、）アンケート調査では見えてこない市の考えや思いを直に聴いてみたい。また、建造物の保存会のような地域の方々からも活用に関するヒントなどを聴きたい。【空知総合振興局】

#### <その他>

- ・空知総合局の知事への政策提案の内容が、この検討会の検討内容と類似しているが、どのような整理をしているのか。【環境・エネルギー室】
  - 振興局長から知事へのプレゼンでは、産業革命遺産の保存・活用と各種事業との連動や専掌部署の設置など、来年度の施策に直接結びつくような取組を提案する予定。【空知総合振興局】
- ・10月中旬から11月上旬までの間に中間報告（知事へのプレゼン）を予定。プレゼンは基本的にサブリーダーにやってもらう方向。可能であれば他のメンバーも出席してほしい。【政策局】
- ・赤レンガインターネット会議室で、発言がアップされたらメールに通知される機能を教えて欲しい。【北海道博物館】 → 後ほど情報提供する。【政策局】
- ・今後、広域で産業遺産の保存と活用を推進していくのであれば、（富良野市や美瑛町の事例のような）日本版DMOの視察についても検討してほしい。【地域政策課】
  - 了解した。【政策局】

以上

### 第3回 政策形成チーム会議 議事概要（要点）

- 日 時 平成27年10月27日（火）16:30～17:30
- 場 所 本庁舎2階総合政策部共用会議室
- 出席者 メンバー10名、事務局2名 計12名

政策局参事・青山主幹（リダー）、小野主幹（事務局）、山本主査（事務局）、空知総合振興局地域政策課・東課長（サブリーダー）、森本主査（サブリーダー）、文化・スポーツ課・遠藤主査、北海道博物館学芸部・栗原学芸員、観光局・木之内主任、環境・エネルギー室産・曾我主査、都市計画課・池田主査、後志総合振興局地域政策課・早坂地域政策係長、胆振総合振興局地域政策課・錦野主査

※（欠席）空知総合振興局地域政策課・柏主任、総合政策部地域政策課・山根主事、教育庁文化財・博物館課・藤原主査

#### 意見交換のポイント

##### <中間報告会（11/17 予定）・知事プレゼンの概要について>

- ・基本的にメンバーは全員出席【政策局】
- ・プレゼンは、資料2（A3）を基本としながら、資料3（PPT）を使って補足や強調をする。紙芝居形式でPPTを流すとして、本当に伝えたいPPTは、2、3枚程度にとどめるべき【政策局】
- ・提案者が伝えたいキーワードは鹿児島・世界遺産と史料。もう一つ加えて、メッセージとしてまとめるべき【政策局】
- ・提案者の思いを伝えること【観光局】
- ・プレゼンは産業革命遺産→オープンデータ→意見交換の順番。提案者の思いを分かりやすく伝えるなどプレゼンを工夫しないと、オープンデータに埋没する可能性がある【政策局】

##### <プレゼン資料の内容について（指摘事項）>

- ・世界遺産と「持続可能な地域」をつなぐ見せ方の工夫【北海道博物館】
- ・「持続可能な地域」について具体的に説明する必要性【政策局】
- ・配色（同系色）の工夫、アピールポイントの明確化、説明内容と資料の整合性の確認、人口減少・高齢化の状況に関しての更なる精査【都市計画課】
- ・世界遺産を目指す取組が「持続可能な地域づくり」につながる見せ方の工夫【都市計画課】

##### <プレゼンに向けた事前情報（空知総合振興局の政策提案（10/27）>

- ・知事からは、産業革命遺産の保全・活用に関しての言及は特に無かったが、明治維新150周年を迎える鹿児島県との交流事業については、「いい提案としてインプットされました」との反応があった【空知総合振興局】
- ・山根経済部長からは、「炭鉄港が北海道の礎を築いてきたことを後世に伝えていく必要がある」「我々としても産業振興を歴史に学ぶということでは何か力を注いでいきたい。一緒にやってみましょう」といった反応があった【空知総合振興局】
- ・宮川環境生活部長からは、「こういうお話（北海道博物館に炭鉄港に関する企画展示を検討してほしい旨の空知からの要望）があると、北海道博物館としても非常にありがたい」といった反応があった【空知総合振興局】

##### <その他>

- ・産業革命遺産の保全については、文化庁とユネスコの考え方に違いがあり、道としての方向性は今後の検討対象だと思うが、基本的には耐震補強などの費用をかけてまで保全の必要は無いと考える【空知総合振興局】
- ・世界遺産登録に向けたキーパーソンである産業遺産国民会議・理事の加藤康子氏が、4月27、28日に室蘭の新日鐵住金・日本製鋼所を訪問し、ヒアリング等を行ったと、両企業から聞いた。詳細はインターネット会議室で情報提供する【胆振総合振興局】

以上

## 第4回 政策形成チーム会議 議事概要（要点）

- 日 時 平成27年12月11日（金）14:30～16:30
- 場 所 北海道博物館会議室
- 出席者 メンバー13名、事務局2名、外部有識者1名 計16名

政策局参事・青山主幹（リダー）、小野主幹（事務局）、山本主査（事務局）、空知総合振興局地域政策課・東課長（サブリーダー）、森本主査（サブリーダー）、柏主任（サブリーダー）、総合政策部地域政策課・山根主事、北海道博物館学芸部・栗原学芸員、観光局・木之内主任、環境・エネルギー室産・曾我主査、都市計画課・池田主査、後志総合振興局地域政策課・早坂地域政策係長、胆振総合振興局地域政策課・錦野主査、教育庁文化財・博物館課・藤原主査

※（欠席）文化・スポーツ課・遠藤主査

### 北海道博物館・石森館長の講義のポイント

#### <中間報告の印象について>

- ・素晴らしい提案であるが、広域的な連携は、長い間行政課題として叫ばれているものの、必ずしもうまくいっていない。そういう意味で、チャレンジングな要素を含んでいる。
- ・新たなビジネスチャンスにつなげていけるかどうか大きなポイント。

#### <北海道遺産について>

- ・他の都府県に先じた制度であったが、人的・資金的な面で課題を抱えている。
- ・資金面の課題について、イオンなど包括連携協定企業の寄附を活用することで、何とか活動できている状況。
- ・現在52の遺産が登録されているが、新たに選んで欲しいというところもあることから、今後、ストーリーで再編したり、新たなものを加える可能性はある。
- ・単体ではなくストーリーでうまく組み合わせることで、よりよいプロモーションができれば、従来にはなかったチャンスが生まれる可能性がある。
- ・（北海道遺産のように）北海道と包括連携協定を結んでいる企業を有効に活用するべきであり、このプロジェクトについても活用できる可能性はある。

#### <観光への活用について>

- ・日本は文化財の「保護」に力を入れてきたが、安倍政権になってから、観光への活用にシフトしている。
- ・文化財全てを観光に活用というのは行き過ぎだと思うが、ビジネスマインドは必要。
- ・関西出身の自分は、最近「北海道アズナンバー1」というテーマで講演することが多いが北海道の様々な魅力は、日本、アジアの中で抜群である。
- ・地域の宝を大切にすることは当然のことであり、日本遺産や世界遺産を目指す中で、それをきっかけとしてヘリテージビジネスにつなげていく必要があるが、旧来的な意味での観光（旅行業、宿泊業、運輸業主導）であってはならない。
- ・今年は、インバウンドが1,900万人と言われているが、（ホテルのとりづらさなど）国内観光への影響も懸念される所。
- ・地元の誇りやアイデンティティを確認するとともに、ビジネスチャンスにつながる取組になるとしたら、この空知の提案は大いに意味がある。

#### <地域の受け皿について>

- ・本当の意味での「DMO」は簡単なものではない。「M」にはマネジメントとマーケティング両方の意味があることからわかるように、安直に大手企業からドロップアウトしたような人を充てればよいというものではない。
- ・地域資源を新たな形で活用していくのであれば、新たな地域法人が必要になると考える。
- ・そういう意味では、「そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター」は、DMO的な役割を果たす可能性が十分にあると思う。

#### <日本遺産について>

- ・北海道からは申請すらなく、北海道・東北の認定件数はゼロ。